

石川県輪島市受託研究に伴う事業

能登半島地震による被災下張り文書等の 剝離・整理作業に関する報告

田上 繁

2015 年度の活動

本事業は、2007 年 3 月の能登半島地震で被災した文化財のうち、輪島市門前町黒島の廻船問屋角海家文書をはじめとする諸家文書の調査、保全作業、及び角海家の民具調査、民具目録作成について、本研究所が輪島市からの受託事業として推進しているものである。翌 2008 年度より着手した本事業は、以後継続して進められ、そのうち、角海家の文書と民具に関する作業は、昨 2014 年度までにすべて完了している。

そのため、本年度は、諸家所蔵屏風下張り文書の剝離作業と整理作業を行った。4 軒分 14 枚の屏風下張り文書は事前に大学に搬送されており、その内訳は直江家 2 枚、堀場家 1 枚、永井町の谷

地口家 1 枚、阿岸の本誓寺 10 枚となる。そのうち、昨年度までに作業を終えたものもあり、その文書点数は 3,527 点を数える。本年度は、本誓寺の屏風のうち未着手分の 6 枚の剝離作業を行うこととした。

作業の全体的な流れは、屏風から下張り文書 1 点ずつを丁寧に剝がし、水で洗浄した後、毛氈上で乾燥させ、仮番号を付与して封筒に入れる作業が一連の手順となる。今年度の作業の結果、2,645 点の文書を得るに至り、これまでの分と合わせると、剝離を終えた諸家屏風下張り文書の総点数は合計 6,172 点となる。

剝離作業を終えた諸家屏風下張り文書は、現在、委託先の輪島市教育委員会にすべて

本誓寺屏風（No. 5）の剝離過程

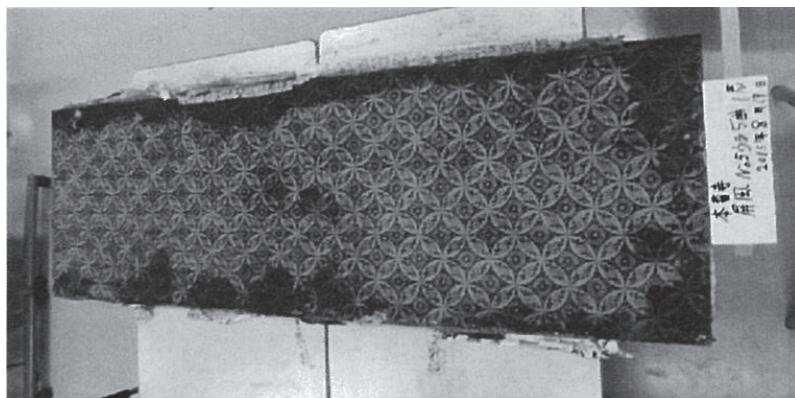


写真 1 裏の表面（唐紙）



写真 2 裏（2層）

返還されているが、今後、屏風下張り文書の整理、写真撮影とともに目録取りの作業を進める必要がある。そして、その延長線上で各家所蔵の文書目録と史料集を編集、公刊することが急務の課題となろう。中でも、昨年度までに剝離、整理作業が完了していた角海家文書については、襖下張り文書のほか、屏風下張り文書や畳上敷き下張り文書などが残されており、とくに、縦横とも2m前後にも及ぶ8枚の畳上敷き下張り文書は注目される。一例を挙げると、明治34年発行の新聞紙に表裏から6層～8層ぐらいに文書が張り重ねられ、1枚の畳上敷き下張り文書から剝離した点数はおよそ600点にも及ぶ。

しかも、その大部分が江戸後期から明治初期にかけて日本海を舞台に活動した北前船に関する文書でしめられる。角海家に常態で伝わる文書には、同家が営んでいた廻船問屋に関する文書が皆無に等しい状況下にあって、北前船の実態を知ることのできるきわめて貴重な文書群とえる。廃棄されるはずの廻船問屋の文書が、畳上敷き下張り文書として再利用されている事実は重要であり、今後の北前船研究に大きく寄与するものと思われる。

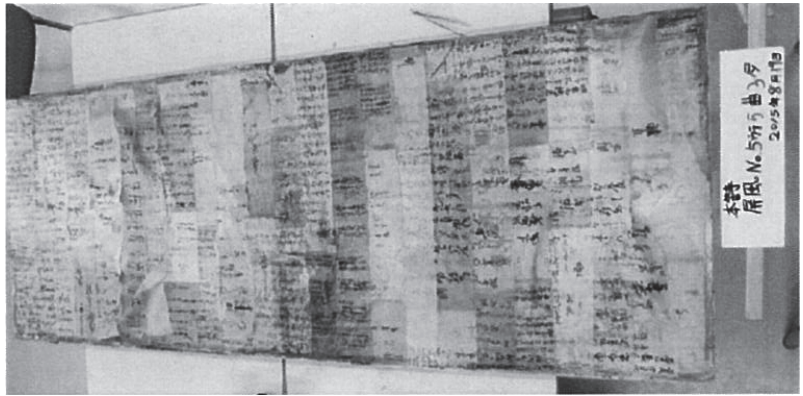


写真3 裏(3層)

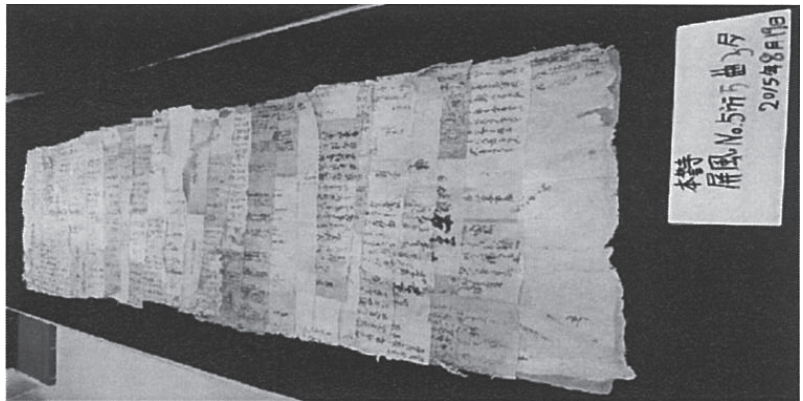


写真4 裏の3層の剝離した文書

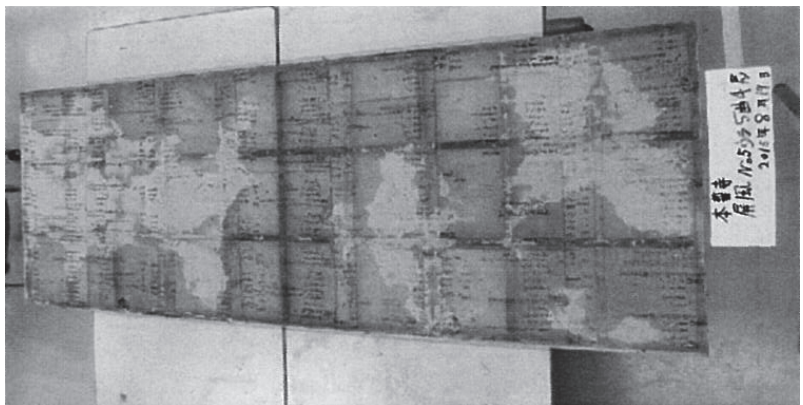


写真5 裏(4層)

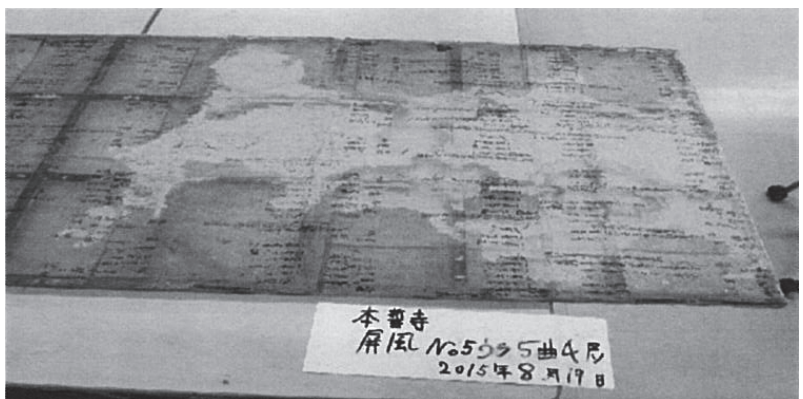


写真6 裏(4層)拡大